

# 神楽通信

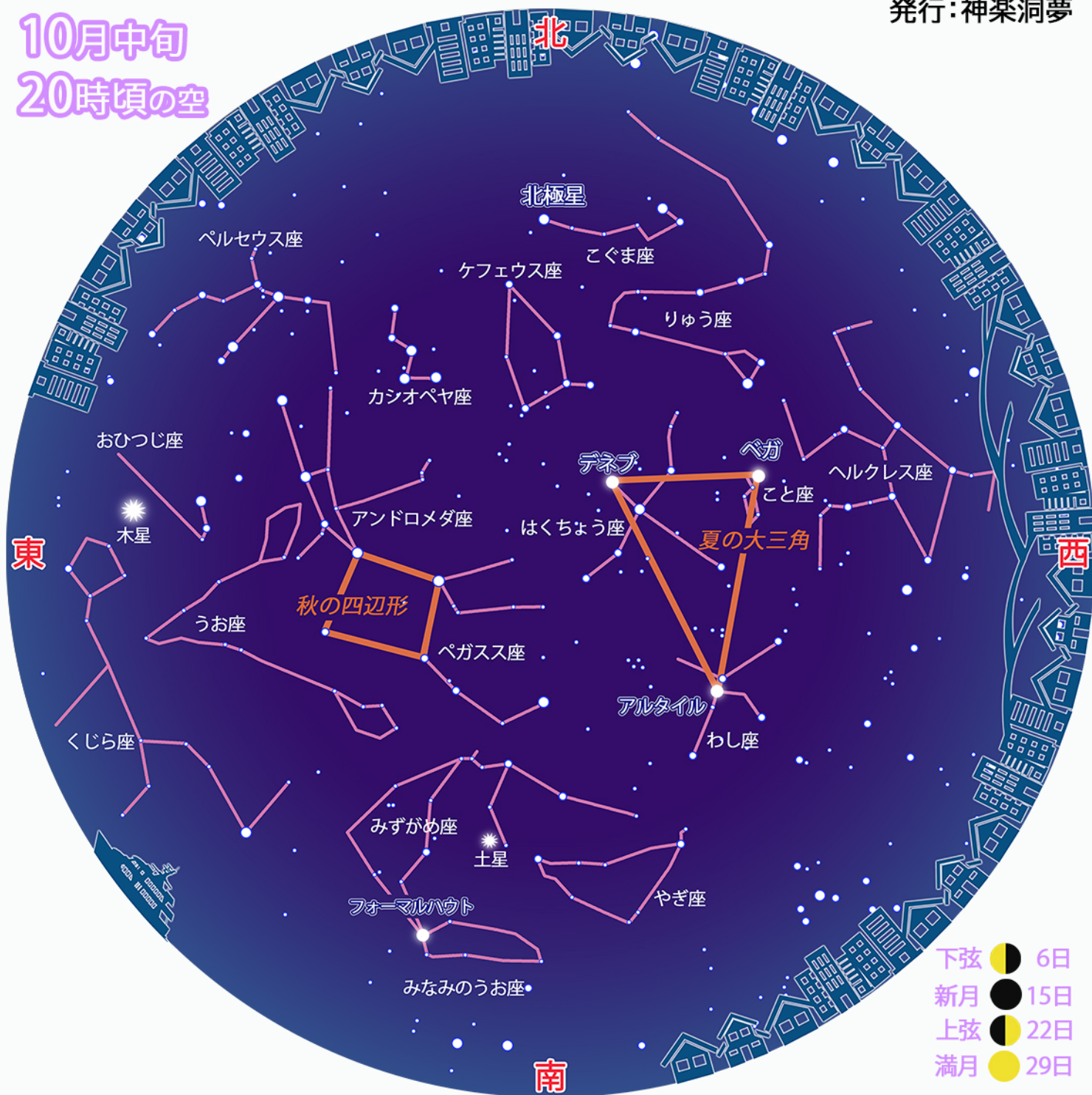
No.92

2023年

10月号

発行:神楽洞夢

10月中旬  
20時頃の空



秋分の日を過ぎて日暮れの早まりをより一層感じられるようになってきました。そんな宵のころに空を見上げると、「夏の三角形」をなす三つの1等星と二つの惑星の輝きが目を引きまします。また南の空の低い位置に「秋のひとつ星」ともいわれる1等星のフォーマルハウトを見つけられます。惑星や1等星を手がかりに秋の星座探しを楽しんでみてはいかがでしょうか。

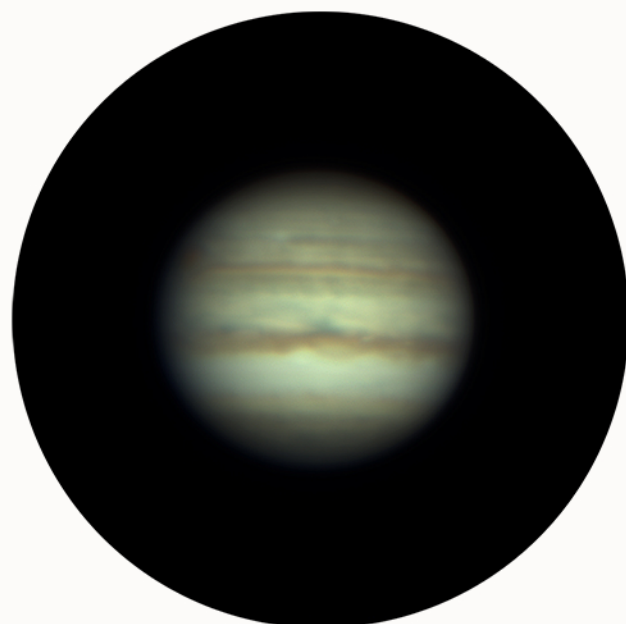
## ”惑星の王様” 木星

木星は太陽系最大の惑星で、直径は地球のおよそ11倍あります。

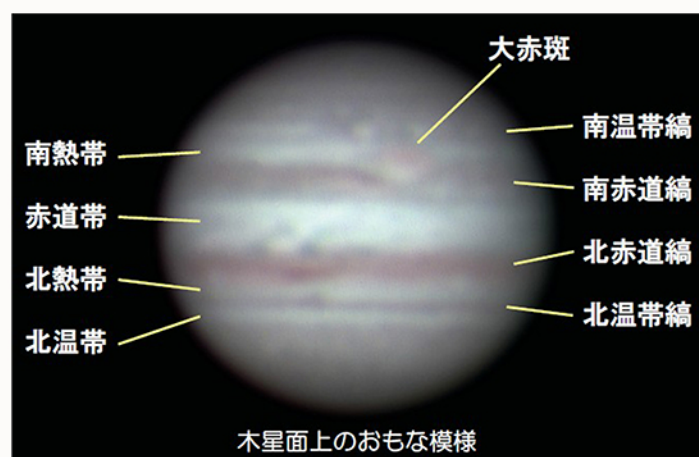
93パーセントの水素と7パーセントのヘリウムと太陽とほとんど同じ元素で構成されています。質量は地球のおよそ318倍もあり、これは木星以外の太陽系のすべての惑星を足し合わせたものの倍以上になります。

木星最大の特徴である表面の縞模様はすべて雲で、大気中のアンモニアが凝固したものです。

木星は10時間弱という凄まじい自転速度から生じるジェット気流が生まれており、縞模様は緯度帯ごとにジェット気流にそって東西方向に互い違いになっています。また暗く見える縞(ベルト)は主に下降気流が、白く見える帯(ゾーン)では上昇気流が発生しているといわれ、それぞれ名前がついています。



昨年10月中旬に撮影した木星の様子



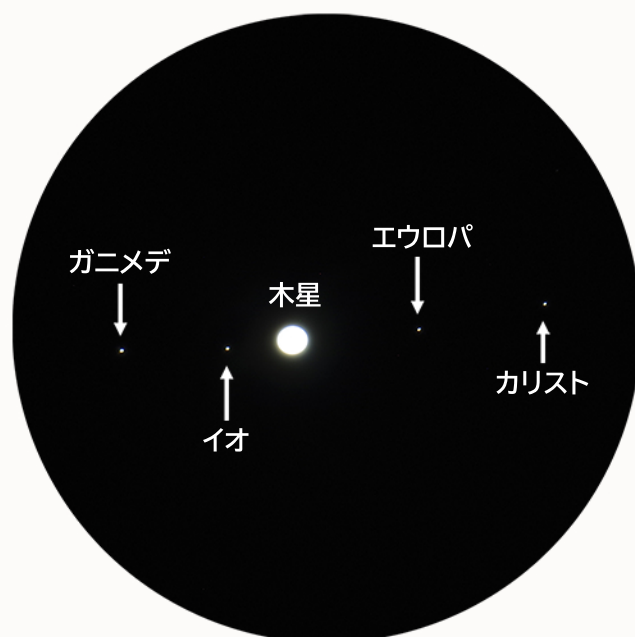
木星面上のおもな模様

## 木星の見どころは他にもたくさん！

縞模様とともに目立つ模様が、「大赤斑」です。この大赤斑だけでも地球がすっぽりと収まってしまうほどの大きさがあります。

この巨大な渦は大きさや色が変わりながらも観測がはじまった17世紀から現在に至るまで350年以上も存続しているともいわれています。

また、木星には数多くの衛星があり、なかでもガリレオ・ガリレイによって発見された4つの衛星(イオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト)は月と同じかそれ以上に大きさがあり、望遠鏡で手軽に観測を楽しむことができます。



木星とガリレオ衛星たち